Kurobe Social Welfare Action Plan
黒部の福祉を良くする活動計画

私たちが取り組む 3つの重点事業［5カ年推進］

くろベネット

1 活動人口を増やそう　3 すべての人々に福祉を　4 U-40代の力を活かそう　5 パートナーシップで目標を達成しよう

誰もが安心して暮らせる包括的な見守り支援体制の強化

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の実現のために、ご近所や地域単位での普段の見守りを大切にしながら、黒部市全域で住民と企業や行政、専門職などが連携することで市民総参加の地域共生社会の実現に取り組んでいきます。

地域福祉分野でのICTの利活用

1 活動人口を増やそう　4 U-40代の力を活かそう　5 パートナーシップで目標を達成しよう

ICTを利活用した地域福祉事業の効率化、発展的な継続

人口減少や福祉の担い手不足、複雑多様化する地域課題に対して、ICTの力を活用することにより、効率や利便性を高め、福祉活動支援者の環境や活動を間接的に支援し、地域福祉推進力を強化していきます。

小地域福祉活動の強化

1 活動人口を増やそう　2 話すことからはじめよう　4 U-40代の力を活かそう　5 パートナーシップで目標を達成しよう

それぞれの地域特性に対応した地域福祉推進の計画づくり

黒部市全体を考えながらも、それぞれの小地域（16地区）の地域特性や実情にあった活動や事業を考えることが必要です。地域単位で調べ、考え、話し合う機会をつくり「自分たちの地域を自分たちで良くしていく」住民主体の活動をつくりだします。

PDCAサイクルでビジョンを実現しよう

この詳細は、黒部市社会福祉協議会のホームページ（http://www.kurobesw.com/）「第３次黒部市地域福祉活動計画」からダウンロードできます。

［編集・発行］第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会　事務局：社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
〒938-0022　富山県黒部市金屋464-1　TEL.0765-54-1082（代表）FAX.0765-52-2797

黒部市社会福祉協議会ホームページ ▶

黒部の福祉を良くする活動計画

Kurobe Social Welfare Action Plan

2019年度 ― 2023年度

1 活動人口を増やそう

2 話すことからはじめよう

3 すべての人々に福祉を

4 U-40代の力を活かそう

5 パートナーシップで目標を達成しよう

5 GOALS for 黒部

この活動計画は、「お互いさまの社会の実現」を目指し民間の福祉活動団体や活動者が、ここから５年間、何を目標（ゴール）にどんなこと（ターゲット）に力を入れて取り組んでいくのかを示すものです。なお、本計画は「第3次黒部市地域福祉活動計画」をわかりやすくまとめたものです。

作成：第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会　事務局：社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

Kurobe Social Welfare Action Plan

黒部の福祉を良くする活動計画

Vision

お互いさまの社会の実現に向けて

Mission

誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりの推進

地域福祉に関わる全ての団体や人々と共に目指す5の目標と15の取り組み

5 GOALS for 黒部

1 活動人口を増やそう

黒部市人口ビジョン（2015年策定）では、今後の人口は減少し、一方で高齢者の増加が見込まれます。そのような中で、地域活動を発展的または、維持していくためには、一人ひとりが2役、3役と様々な「出番と役割」を持つ必要があります。地域活動に参加する機会を増やし、人口減に反比例するように活動人口（地域活動に参加する人）を増加させていくことを目指します。

地域で活動する人を増やし地域の担い手を育てる

1. 小さな地域で出番を増やす
2. 住民主体の意識を育てる
3. 世代間交流事業に取り組む

2 話すことからはじめよう

人と人とのつながり、信頼関係を構築するためには、知る場、学ぶ場、話し合う場、そして当事者同士が支え合う場づくりが必要です。話し合い、相互理解、情報を共有することから、新たな手立てが導き出され、それが行動促進へつながります。地域のこれからを自分たちで考える対話の場づくりを増やし、住民主体のまちづくりを目指します。

ICT（インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー）…… 情報通信技術の略。パソコンやスマートフォン、スマートスピーカーなど、さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。

話し合う場、学び合う場、支え合う場をつくる

1. 市内で学び合う場をつくる
2. 新しい話し合いの場をつくる
3. ICTを活用した「知る・学ぶ・つながる」場をつくる

3 すべての人々に福祉を

誰もが安心して地域で生活していくことができる地域共生社会を実現するためには、「お互いさまの助け合い」の心を育てていく必要があります。また、声なき声を拾い、時代の変化と共に生まれ続けるマイノリティーな立場にある人々を「誰ひとり取り残さない」の精神のもと支えていく社会の実現を目指します。

マイノリティー …… 社会的少数者または社会的少数集団。社会的少数派とは、その社会の権力関係において、その属性が少数派に位置する者の立場やその集団を指す。

誰もが安心して暮らせる社会的孤立の無い地域をつくる

1. 「お互いさまの支え合い」を実現する
2. 「声が届く地域、声を見つける地域」を目指す
3. 小地域単位での地域課題解決力を高める

4 U-40代の力を活かそう

地域を支える支援者の高齢化が深刻な課題として挙げられている中、次世代に引き継ぐしくみとして、地域での話し合いの場面において若者の声を意識して入れていく必要があります。人生100年時代を見据えて、40代以下が地域づくりに関心を持つ機会をつくり出し、参加する場を提供することで次世代の社会参加を促すことを目指します。

U-40代（アンダー40代）…… 「U（ユー）」はアンダー（under）の頭文字で、「下の」、「下に」を意味する。この場合は49歳以下を指す。

U-40代に地域福祉への関わりや参加の機会を増やす

1. 小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす
2. 10代、20代、30代、40代の声を入れる
3. 全世代で福祉体験教育に取り組む

5 パートナーシップで目標を達成しよう

複雑多様化する地域課題を解決していくためには、それぞれの強みや利害を明確に連携協働していくことが必要不可欠です。異業種や異分野でつながる多職種の場づくりや市内16地区間での連携体制の強化を目指します。

パートナーシップ …… 協力関係。協働。提携。
プラットホーム …… 動かすために必要な、土台となる環境、土台となっているもの。
コラボレーション …… 共に働く、協力するという意味で、共演、合作、共同作業、利的協力を指す語である。

様々な連携・協働で地域課題を解決していく力をつける

1. つなぐプラットホームを整備する
2. 異業種／異分野がコラボレーションする場づくり
3. 地区同士の助け合い、連携を強化する